

今週の主な News

1. 全国まちづくり会議 2023 いよいよ今週末開催!
2. 黒川洸元会長 逝去のお知らせ

■全国まちづくり会議 2023 いよいよ今週末開催!

「全国まちづくり会議 2023 in 東京ちよだ」は今週末です。多種多様なセッションプログラムが用意されました。ぜひご参加ください。

開催テーマ:「これからのまちづくりの担い手」

日時:2023年10月7日(土)13:00~20:00

10月8日(日)10:00~18:30

場所:明治大学駿河台キャンパス リバティタワー

詳細・問合せ: 日本都市計画家協会(JSURP)まで

<https://sites.google.com/view/zenmachi2023>

・全まち 2023 のプログラム等は下記を参照して下さい。

<https://sites.google.com/view/zenmachi2023/program#h.4mguddwnqlrn>

★オープニングセッション:まちづくりの哲学

10/7(土) 13:00~15:00 @リバティタワー8F(中教室 1083)

宮台真司(社会学者 東京都立大学)

蓑原 敬(都市計画家 蓑原計画事務所所長)

現代においてリアルなまちが何故重要なのか、まちづくりを進めることの意味は何かなど、まちづくりの根底にあるべき哲学について語り合います。

★懇親会&第15回日本都市計画家協会賞授賞式

10/7(土) 18:00~20:00 @リバティタワー23階ホール

参加費:4,000円

どなたでも参加できます。全まちセッションなどに参加された後に懇親会で、さまざまなまちづくり人・都市プランナー・アーバンニストと交流しましょう

★全まちエクスカッション(まち歩き)

日時:10月8日(日)10:00~12:00

コース:「古地図を重ねて歩く神田駿河台界限」

「東京文化資源・台東区谷中の今」

参加費:2,000円

申込:<https://peatix.com/sales/event/3670934/tickets>

東京の下町、神田駿河台界限コースと、谷中界限コースの二つを用意しています。まちづくりのプロが案内するまちづくり型まち歩きに参加してみませんか。

★個別セッション(どなたでも参加できます)

テーマ別セッションは全部で21実施予定です。その中からいくつかのセッションの見どころをご案内します。全プログラムの概要は下記ウェブサイトをご覧ください。

<https://sites.google.com/view/zenmachi2023/program>

★10月7日(土)午後開催のセッション紹介

8. 地域デザインフォーラム 地域資源を巡る旅

10/7(土) 15:30~17:30 @7F(中教室 1073)

西川亮(立教大学)

小林真幸(KRC)

石川岳男(JSURP/計量計画研究所) 他

松本城から望む常念岳、沼津の伊豆石文化、川越蔵のまち、アートによる向島の新しいコミュニティ。魅力ある文化の背景を展望しつつ、地域資源を活用した新しいデザインについて議論する。

1. これからのプランナー像と職能

10/7(土) 15:30~17:30 @8F(小教室 1083)

中西正彦(JSURP/横浜市立大学)

高鍋剛(JSURP/都市環境研究所) 他

JSURPではこれからのプランとプランナーのあり方について継続的に議論を進めている。このセッションではこれまでの論点を紹介し、多様なプランナー像と役割について会場と意見交換する。

6. スケート文化がつくる楽しいを共有する場 まちビト・トーク#13

10/7(土) 15:30~17:30 @8F(小教室 1084)

北島宗和(Chees 代表/スケートボーダー)

山崎嵩拓(JSURP/東京大学)

右田萌(JSURP/シティラボ東京/SharedVision) 他

スケートボーダーの北島宗和氏をゲストに、その自己流の活動がまちに与えた影響を掘り下げながら、スケボー文化がつくるインクルーシブな場づくりの秘密に迫る。

★10月8日(日)午前開催のセッション紹介

9. 農的活動の新展開と市民緑農地の可能性

10/8(日)10:00~12:00 @7F(中教室 1074)

柳沢厚・佐藤啓二・小谷俊哉(JSURP 生産緑地研究会)

氏家 健太郎(日野市役所)

広岡裕児(ジャーナリスト) 他

都市における農への関心の高まりと多様化するオープンスペースの農的活用事例を報告し、「農地」「公園緑地」と並ぶ第三のオープンスペース概念「市民緑農地」の制度化の可能性を議論する。

20. これからの「逃げ地図」づくりの担い手

10/8(日)10:30~11:30/15:30~17:30 @8F(中教室 1083)

石田真実(かながわ 311 ネットワーク)

中村レイ(尾鷲市三木里地区会)

羽鳥達也(日建設計) 他

多様な災害からの「逃げ地図」づくりについて、全国各地の実践事例のリレートークの後、アイデアWSの成果を報告し、学校や企業等、これからの「逃げ地図」づくりの担い手について語り合う。

7. 三陸セッション 復興事業をリノベする

10/8(日) 10:00~12:00 @8F(小教室 1076)

及川一輝(JSURP/邑計画事務所(大槌))

刈谷智大(街づくりまっぽう(石巻))

臂徹(JSURP/キャッセン大船渡(大船渡))

三浦友幸(JSURP/プロジェクトリアス(気仙沼)) 他

東日本大震災の復興過程で作られた様々な施設やシステムが、発災から12年経過し「リノベ」されている事例がある。それら事例を踏まえ、復興・地域の特性を考えると共に三陸の

今を発信する。

18. 女性とまちづくり研究会 オフ会！

10/8(日) 10:00～12:00 @8F(小教室 1084)

本研究会は2021年11月に発足し、女性の参加のしやすさを踏まえ、これまで8回オンラインで開催した。全まち会議を好機と捉え、初めて対面での交流会を開催し、つながりを強化する。

★10月8日(日)午後開催のセッション紹介

17. まち工場(こうば)からイノベーション

10/8(日) 13:00～15:00 @8F(小教室 1071)

伊藤清武(都市産業研究所)

山本章子(おおたクリエイティブタウンセンター)

浅野 義弘(京島共同凸工所) 他

旧来の産業・ものづくりから脱皮し、基礎的なものづくり技術を基盤としつつデザイン・情報・マーケティング・マネタイズなどの外部デバイスとコラボして新たなものづくりの可能性を拓く場(イノベーションハブ)が都市・まちなかに生まれ始めている。その背景と可能性について議論する。

12. 開発圧力の猛威に抗する歴史文化まちづくり

10/8(日) 13:00～15:00 @7F(中教室 1073)

田村誠邦(神保町・アークブレイン)

椎原晶子(谷中・國學院大學) 他

歴史的・文化的な街並みを根こそぎにする開発圧力に抗いながら、いかに歴史文化資源を保全活用するまちづくりを進められるのか。東京都区部各地区の苦悩と奮闘の中からその道すじを見出したい。

14. これからのまちづくり研究会総括セッション

10/8(日) 13:00～15:00 @7F(小教室 1074)

蓑原 敬(都市プランナー)

丸山 宏司(国土交通省)

大須賀 芳雄(奈良県)

高倉 明子(長野県) 他

過去の公開研究会(奈良県十津川村の村づくり、長野県における都市計画・まちづくり)を踏まえ、改めて問題意識を共有し、市町村のまちづくりのあり方について意見交換。

5. これからのスポーツ施設と災害対応の担い手

10/8(日)13:00～15:00 @8F(中教室 1083)

谷田部然輝(川崎フロンターレ)・篠原唯(川崎フロンターレ)・双川華子(川崎市防災まちづくり推進課)・加藤孝明(JSURP/東京大学)他

最近、公的未利用地を有効活用したスポーツ施設が増えており、避難場所など新たな防災資源としても期待されている。川崎フロンターレを事例に、これからの災害対応の担い手について語り合う。

2. 本の街・神保町のまちづくり協議の進め方

10/8(日) 15:30～17:30 @7F(中教室 1073)

印出井一美(千代田区)

田村誠邦(アークブレイン)

中島伸(東京都市大学) 他

開発圧力が高い都心部に今なお中小の古書店が集積する本の街・神保町。街並みの連続性の観点から、駐車場附置義務の緩和等も議論されてきた。コロナ禍を経た今後のまちづくりについて語り合う。

13. 空家活用による居住支援型コミュニティ形成

10/8(日)15:30～17:30 @7F(中教室 1074)

横田能洋(茨城 NPO センターコモンズ)

藤井さやか(筑波大学)

山中資久(JANPIA)

佐谷和江(JSURP 理事) 他

外国人支援を含めた「空き家を活用した居住支援型の復興・コミュニティづくり」をテーマとして、課題の共有化を図るとともに、課題への対応のあり方について考える。

11. 日中韓交流若手セッション:リターンズ

10/8(日) 15:30～17:30 @8F(小教室 1084)

裴宇翔(柵都市環境研究所)

イムヒョン(JSURP/東京都市大学)

成雨濛(JSURP/千葉大学大学院) 他

これからのまちづくりの「担い手」とは？中国上海市・韓国モックポ市のまちづくり事例に関わる計画者とまちの住民・利用者それぞれへのヒアリング結果から、各国のプレイヤー像について議論する。

■黒川洸元会長 逝去のお知らせ

日本都市計画家協会の2代目の会長である黒川洸氏が令和5年9月13日(水)夕方、入院先の病院にて永眠されました。9月初めから入院療養中でありましたが、容態が急変されたとのことです。享年82歳でした。謹んでお知らせ申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

なお、葬儀は9月18日(月)にご親族様のみで執り行なわれたとのことです。ご親族様のご意向により香典、生花等についてはご辞退、ご自宅へのご弔問は控えていただきたくお願いいたします。また、関係団体において11月下旬頃を目途に「黒川先生を偲ぶ会」の開催に向けた検討が行われており、詳細が確定した段階で改めてご案内します。

黒川洸元会長は、当協会の設立時から中心的役割を担われ、2001年のNPO法人化後は伊藤滋初代会長に次いで、2006年から2009年の4年間にわたって第2代会長として協会の発展を先導されてきました。また会長を退かれた後も、私たちの東日本大震災復興支援活動などにおいて多くの助言・支援をいただきました。心よりご冥福をお祈りいたします。

黒川洸第2代会長の言葉

—日本都市計画家協会 25周年フォトブック

『25年の軌跡』(2020年) より—

都市計画は人々の生活や活動の物的環境を規律するもの。そのため、住民参加を充実させて規律に対する社会的なコンセンサスのレベルを上げることと、一方で規律の根拠や結果の予測等のための専門性を高めることが必要。家協会は、設立当初からこの2つの立場が明確に意識されていて、それは25年たった今も変わっていない。今後ともこの2つの視野は維持すべきだが、専門性の議論をもう少し強化することが必要ではないかと思う。都市計画の専門領域がまだまだ曖昧で「都市計画家」と名乗っても社会的に受け入れられる状況になっただけで、このままでは、大学でも行政でも「都市計画」領域が生き残れるか懸念される。専門性に関して今問われているのは、都市の縮退に際して打つべき有効な手立てを根拠を持って示すことではないか。ここに果敢にチャレンジしてほしい。

若い方々には、勉強よりも現場の経験、現場で起きている具体的問題に関わることを重視してほしいと思う。今は都市の状況が大きく動いているので、そこにある問題を直に理解することから始める必要がある。